

■勝山南遺跡出土の鑄造関係資料■

勝山南（かつやまみなみ）遺跡は、前方後円墳である御勝山（おかちやま）古墳の西側に位置する遺跡です。

発掘調査では谷を検出しており、この谷の中から、鑄造（ちゅうぞう）に関する遺物や瓦が出土しました。

なかでも注目されるのは、金属を溶かし合わせるために使われた坩堝（るつぽ）です。

奈良県の飛鳥池（あすかいけ）遺跡や韓国の王宮里（おうきゅうり）遺跡からよく似た形の坩堝が出土しており、金属を加工する技術の関連性がうかがわれます。

当遺跡の近くに、百済王氏がかかわる金属加工工房があったのかもしれない。

また、科学的な成分分析により、坩堝の表面から亜鉛（あえん）が検出されている点も重要です。

飛鳥池遺跡の坩堝からは亜鉛が検出されておらず、材料の入手経路や技術的な系譜関係が興味深く思われます。